

笑顔で学ぶ

久留米市教育委員会発行
No. 3 (平成23年12月)

くるめっ子通信

「豊かな心」の育成

- ・赤ちゃんのお世話を体験
- ・人権・同和教育の取り組み
- ・車いすバスケットに参加
- ・家族での約束を大切に



赤ちゃんのお世話を体験しました

三潁中学校では、子育て支援サークル(らっこクラブ)や地域のボランティアサークル(コスモス)などから協力いただき、生徒たちが実際に赤ちゃんと接する「赤ちゃんふれあい体験学習」を実施しています。

中学校3年生が約20人の赤ちゃんのお世話をするとおして、生命の尊さや親に対する感謝、男女が協力することの大切さを学び、自己の生き方を考える学習を行っています。

生徒からは、赤ちゃんを恐る恐るだっこしながら、「昔は私もこんなに小さかったんだ」「泣き声にびっくりした」などと笑顔で話していました。

この他、各中学校では「豊かな心」の育成に向けて、職業観・勤労観を育てるための職場体験学習や社会性や道徳性を培う宿泊自然体験学習などの取り組みを進めています。

「豊かな心」の育成を目指して

「笑顔で学ぶくるめっ子」に向かって、第2期久留米市教育改革プランの具体的な目標の二つ目に“「豊かな心」の育成”を掲げています。

笑顔で人間関係を構築する基盤として、自分の存在を肯定し大切に思える心や、自分の大切さとともに他者の大切さを認め共感・協調していく心、感動する心等の豊かな心を育みます。

特に、安心して学べる雰囲気づくりや、不登校やいじめ、非行などへの対策、情報モラル教育などを通じて、子どもたちの自立心の育成や社会性の向上に取り組めます。

「豊かな心」の育成のために

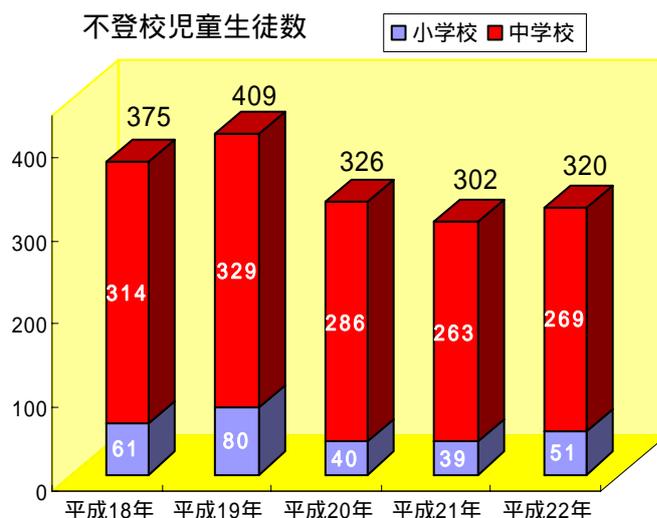
《子どもたちの現状》

第2期教育改革プランでは、「豊かな心」の育成に関連して、不登校児童生徒数を目標達成の指標の一つとしております。

本市の不登校児童生徒数は、平成19年度は409名でしたが、それ以降は減少し、300名余りで推移しています。(右図参照)

不登校の原因は、様々な要因が複雑に絡んでいることが多いことから、学校・家庭・関係機関が連携し、子どもの基本的な生活習慣・自尊感情・規範意識・社会性などを育みながら、不登校を出さない取り組みと、学校復帰への取り組みが必要と考えています。

不登校児童生徒数



《各機関等が果たすべき役割》

家庭・地域の役割



基礎的な家族関係を構築する。
基本的な生活習慣や礼儀・マナー等を身につける取り組みを徹底する。
保護者同士や地域とのつながりを構築する。
道徳性を育む地域での交流や体験活動を行う。

教師・学校の役割



安心して学べる魅力ある学級・学校づくりを行う。
自他を尊重する人権認識を育てる人権・同和教育の充実を図る。
規範意識や自尊感情、思いやりの心などの道徳性を培う道徳教育の充実を図る。
不登校・いじめ・問題行動等への的確な対応を行う。
職業観・勤労観を育てるためのキャリア教育の充実や感動する心や協調・協働する心を育てるための体験活動の充実を図る。

行政施策の考え方



道徳の時間をはじめとする、各学校での授業充実や円滑な学級経営に向けた指導助言を行う。
社会性を育むための集団活動に必要なバス賃借など、基礎的な条件整備を行う。
文化・芸術に関する教育活動への支援や部活動への支援などを行う。
不登校問題等へ対応するための相談体制の構築や関係機関との連携、復帰支援の取り組みなど、学校等に対する人的支援を行う。
人権・同和教育について、学校での教育活動に対する指導助言や、人権が尊重される学校づくりを目指した実践研究の推進を図る。

《取り組みの目標》

項目	現状	目標
「自分には良いところがあると思う(とても・まあまあ)」と答える児童生徒の割合	小5 68.4% 中2 45.5%	小5 現状維持以上 中2 全国平均以上 (小5 65.3% 中2 48.9%)
「自分は友だちから認められていると思う(とても・まあまあ)」と答える児童生徒の割合	小5 59.5% 中2 51.9%	全国平均以上 (小5 61.9% 中2 55.3%)
「学校の決まりを守っている(とても・まあまあ)」と答える児童生徒の割合	小5 87.7% 中2 88.2%	全国平均以上 (小5 88.8% 中2 89.7%)
小中学校における不登校出現率	[H22]1.25%	全国平均以下 (1.15%)
小中学校における不登校からの復帰率	[H22]20.3%	福岡県平均以上 (22.9%)

「豊かな心」の育成に向けた取り組み

どの学校も子どもたち一人一人が大切にされる教育の充実をめざしています。

障がい者問題を学ぶために、授業の中で車いす体験をしている様子です。



車いす体験

一人ひとりの子どもたちを大切にする学校環境になるように、教室の掲示物にも工夫をしています。



異年令遊び



異年令で遊んでいる様子です。仲間作りを大切にしています。



手をつないでいる自己紹介カード

市教育委員会では、すべての子どもが笑顔で安心して過ごしながらか、確かな学力を身につけていく学校づくりを目指し、どの子どもも大切にされる授業づくりや環境づくり、人間関係づくりを進める人権・同和教育を推進し、人権が尊重される学校づくりを進めています。

この人権・同和教育の目標は「自分を大切にし他の人も大切にする意識と行動力を持つ子どもの育成」です。人権・同和教育を充実させることで、子どもたちが人権について学び、自分に自信を持ち、人を大切にすることができるようになる、それが豊かな心を育てることにつながると考えています。

車いすバスケットボール大会に子どもたちが参加



9月3・4日、久留米総合スポーツセンター体育館で、第28回りんどう杯車いすバスケットボール九州大会が開催されました。

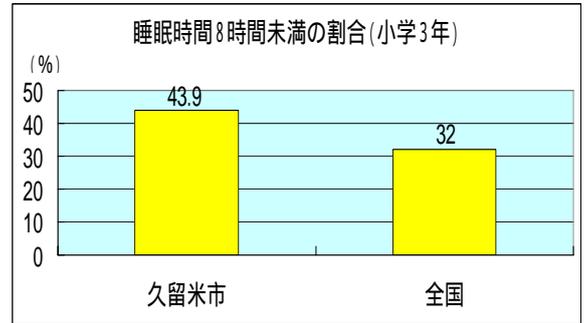
本大会では、毎年多くの市内小中学生が応援、サポートをしています。

子どもたちは、実際に競技用車いすを操作する体験や、選手と一緒に交流試合を行いました。車いす操作の難しさや選手のスピード・テクニックを体感し、障害の有無にかかわらずスポーツに打ち込む選手たちに、熱いエールを送っていました。

家族での約束を守って、よりよい生活を

みなさんの家では、家族の約束はありますか？ 家族の約束を守ることは社会性を身につける第一歩ともいえます。その約束もいろいろあると思います。たとえば、お手伝い、外出・帰宅の時間、就寝・起床の時刻などなど。決めた約束を守り続けることが大切なことです。約束を守れないからといって、ズルズルと見逃すのではなく、約束を決め直すことも一方法です。

さて、約束を守ることを睡眠の観点から考えてみましょう。右図の生活行動・学習活動調査（H22）から分かるように睡眠時間が短いことが分かります。また、小学4年から中学3年までに「自分の生活」であてはまることは何かという調査を行ったところ、「塾で疲れている」、「眠れない」、「食事が不規則」などを抜いて、「睡眠不足」が一番となっていました。



寝る時刻を決めていますか？

決めた時刻に寝ることは、規則正しい生活習慣をつくること、親子で決めたいきまりを守ること、やりたいことをやめて寝るといふ我慢を覚えることにつながります。遅く寝ることは、肥満、イライラ、攻撃性につながるとの調査報告もあるようです。

睡眠時間を確保できていますか？

中学1年生の睡眠時間を比較した国際調査からは、アメリカ、スイスなど13の国のうち、日本を除いた12の国は9～10時間の睡眠時間となっています。これに対して日本は7時間程度であり、子どもの睡眠不足が際だっています。睡眠時間が短いと高血圧につながるとの調査報告もあります。



【私が勧める「眠る」工夫】

久留米大学 小児神経科医師 家村明子



1 早く起きる習慣を

朝起きる時刻が一定になると生活習慣も規則正しくなります。ギリギリの時刻に起きてバタバタと学校へ行くのではなく、朝食を摂り、余裕をもって登校するようにしましょう。朝の光をしっかりと浴びることで生体時計が調節され、規則正しい生活への一歩となります。

2 昼間の活動を十分に

日中、しっかり体を使って過ごすと、夜はぐっすり眠れるようになります。ゲームばかりではなく、しっかりと体を使った過ごし方を工夫しましょう。

3 入浴は早めに

熱いお風呂に入ると体が目覚めてしまいます。眠る2～3時間前までには入浴を終えるようにするといいですね。それが難しい場合は、ぬるめのお湯がよいと思います。

4 睡眠前は暗い環境で

ゲームやDVD鑑賞などは、時間帯によっては眠りを妨げる原因となります。時間を決め、守らせるようにしましょう。また、深夜営業店で過ごすことも、同様に眠りを妨げます。寝る1時間前からは、比較的暗めの部屋でゆっくりと過ごし、眠る環境を整える工夫をしましょう。

久留米市教育委員会事務局 教育部総務・学校教育課

〒830-8520 久留米市城南町15番地3

TEL 0942-30-9213 FAX 0942-30-9719 E-mail:kyousou@city.kurume.fukuoka.jp